

13. 筋骨格系・結合組織の疾患

文献

宮本直、伊藤和憲、越智秀樹、ほか. 変形性膝関節症に伴う痛みと運動機能に対する鍼治療の効果—鍼の刺入深度の違いによる治療効果の検討— 全日本鍼灸学会雑誌 2009; 59(4): 384-94. 医中誌 Web ID: 2009340447

1. 目的

変形性膝関節症の運動機能と痛みに対する鍼刺入深度の違いによる効果の評価

2. 研究デザイン

ランダム化比較試験 (RCT)

3. セッティング

明治国際医療大学附属病院整形外科、京都、日本

4. 参加者

膝 OA と診断され、45 歳以上、罹患期間 6 カ月以上、6 カ月以内に膝痛に対する鍼治療がない等の研究条件に適合する外来患者 26 名

5. 介入

Arm 1: 浅刺群 13 名 (男性 3 名、女性 10 名、平均年齢 68.2±2.2 歳)、下肢圧痛点 10 か所に 3mm 前後刺入、10 分置鍼、週 1 回を 8 回。

Arm 2: 深刺群 13 名 (男性 2 名、女性 11 名、平均年齢 70.0±1.7 歳)、下肢圧痛点 10 か所に 10–20mm 刺入、介入期間、頻度は Arm1 と同様。

6. 主なアウトカム評価項目

VAS (膝痛)、TUG (Timed Up & Go test)、20 m 歩行時間、階段昇降時間、Western Ontario and MacMaster Universities osteoarthritis index (WOMAC)

7. 主な結果

VAS による膝痛の評価は両群とも治療前より有意に改善 ($P<0.05$) したが、TUG、20m 歩行時間、階段昇降時間はいずれも浅刺群のみ治療前に比較して有意に改善 ($P<0.05$) した。WOMAC のスコアは両群とも有意な変化はみられなかった。

8. 結論

膝痛は浅刺群、深刺群ともに治療前に比し有意に改善したが、運動機能は浅刺群のみ治療前に比し有意に改善した。

9. 鍼灸医学的言及

大腿部から下腿部に存在する圧痛点を圧痛の強い順に 10 カ所までを治療点としている。検索された圧痛点と経穴の一致率は両群 40 数%であった。陰陵泉 (SP9)、曲泉 (LR8)、膝関 (LR7)、内膝眼 (Ex-LE4) 等に一致率が高く、両群膝内側部に多い傾向がみられた。

10. 論文中の安全性評価

記載なし。

11. Abstractor のコメント

膝 OA に対する鍼治療の刺入深度の違いによる効果を痛みと運動機能評価で比較した前例のない研究で興味深い。脱落例を ITT 分析した結果も浅刺群が痛み、運動機能ともに改善しており、深刺群と同等の治療効果を有する可能性を示唆している。浅刺刺激のような微小刺激が深刺刺激より運動機能に関しては改善している傾向を示せたことは、微小刺激を sham 治療群とする多くの臨床試験の問題を問う点でも評価できる。しかし運動機能評価に関して、評価が治療者によって行われた点はバイアスの入る余地がある。また両群の群間比較において有意な差がなかったことも、著者が考察しているように浅刺が深刺より有効であると結論づけることは早計である。今後、マスクや膝 OA のグレード等の条件をコントロールし、さらに研究を進めてほしい。本研究はいくつかの不十分さはあるものの、着目点がよく、浅刺鍼の有効性を示唆できた点は高く評価できる。

12. Abstractor and date

井上悦子 2010.11.23